

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	平岡善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	来年度新カリキュラムに移行するにあたり、授業評価アンケート結果や授業改善計画の反映について検討が必要。
	理由	新カリキュラムにおいては、来年度から継続開講科目や読替科目が始まり、新カリキュラムの体系の中で新たにシラバス設計や科目運営がなされることから、今回の結果をどのように反映させるか具体的な検討が必要。
②	課題	R2 年度前期のオンライン講義を経験した上での対面授業再開であったため、様々な「ハイブリッド授業」の試行が行われており、その実践方法や効果、課題について情報共有する。
	理由	語学やアクティブラーニング、実技、大人数講義など、講義スタイルや教育内容に対応して、様々なオンラインツールが対面授業と並行して活用されており、各教員の振り返りの機会や教育群としての共有の機会設定が望まれる。
③	課題	一部の同一科目複数クラスの科目で、授業内容の相違や課題の多寡があり、授業進行にも一部バラツキがあった。
	理由	シラバス通りの内容、教材が使用されていなかったり、履修生の理解度に応じて進行を調整したりしていた。教員裁量は問題ではなく、積極的な面が評価できるが、学生や教員間で「不公平」と誤解される懸念がある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	R4 年度新カリキュラムにおける継続開講科目および読替科目について、今回のアンケート結果および改善計画の結果を踏まえながら、新カリ WG や教務 WG を中心に、R2 年度前後期の授業評価アンケート結果や授業改善計画を確認し、科目運営、クラス編成、シラバス作成などに反映させていく。また、開講保障科目については、選択/必修の別や、最小受講人数の制限などにより開講すべき科目の精査を行い、教育の質の担保や教員負担が過重にならない配慮を行う。
②	「ハイブリッド授業」については、語学やアクティブラーニング、座学や実技など「講義スタイル」に応じたオンライン活用例や講義時間内レスポンス、事前事後学習促進など「利用目的」に応じた活用例がある。全科目の網羅的な「ハイブリッド授業方法」の共有ではなく、「講義スタイル」や「利用目的」などの枠組みの設定に基づき、いくつかの実践例をピックアップして簡単な報告をいただき、マトリクス化して共有資料とするなど検討したい。
③	同一科目複数クラスの科目については、クラス担当者間の情報共有や連絡を密にして授業運営しているが、改めて、シラバスに記載された内容および教材の確認をした上で、教員裁量による教材、課題の設定、履修生の理解度に応じた進行の調整について、相互確認をされたい。クラス担当が、学生の理解度に応じて課題を課したり、進行を調整したりすることは、必要な判断なので、それが教員や学生に「不公平」に誤解されないような情報共有や説明が必要。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

R2 年度前期のオンライン講義を経験してからの、対面授業再開であったため、「ハイブリッド授業」の試行や成果がみられた。対面授業であっても PC やスマートフォンを併用し、①講義時間内のクイックレスポンス (チャットや投票機能) ②事前事後学習時間を見越した課題出題 (ポータル, weclass, Teams 等) ③事前事後学習のための動画、教材、参考資料の共有など、それぞれの取り組みがみられた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

「ハイブリッド授業」については、8月4日に予定されている全学FDにおいて、基盤教育群も含めた全学的な取り組みを共有し議論される。基盤教育群としては、語学、アクティブラーニング、大人数講義、実技系科目など、教育方法毎にハイブリッド授業の試行や成果についてご報告いただくような機会を検討したい。